

日本子ども虐待防止学会

第21回学術集会にいがた大会

“つながりへのチャレンジ”



会期 2015年11月20日(金)・21日(土)

場所 朱鷺メッセ 新潟市中央区万代島 6-1
JR新潟駅から徒歩20分・車で5分、新潟空港から車で20分

大会長 齋藤 昭彦 (新潟大学医学部小児科 教授)

● **演題募集** 一般演題 (口頭発表・ポスター)、応募シンポジウムおよびパネル展示 締切 5月31日
参加事前登録 6月29日開始

学会ホームページ <http://www.jaspcan.org/> よりお申込みください。

参加費 学会員 9000円 早期申込み 8000円

非会員 10000円 早期申込み 9000円 学生 3500円

JaSPCAN
NIIGATA

主催

日本子ども虐待防止学会
日本子ども虐待防止学会第21回学術集会にいがた大会実行委員会

問合せ

日本子ども虐待防止学会第21回学術集会にいがた大会事務局
〒951-8510 新潟市中央区旭町通 1-757 新潟大学医学部小児科学教室内
E-mail jaspcan2015@gmail.com FAX 025-227-0778

大会テーマ「つながりへのチャレンジ」

ごあいさつ

にいがた大会は「つながりへのチャレンジ」をメインテーマとしました。「つながり」は、今の日本で最も必要なことであり、子ども虐待の問題の中心にもあるテーマです。「つながり」の対象とは、虐待されている子どもたちであり、育児困難な親・家庭、さらには、この問題に関わる様々な職種の人や立場の人同士のこと、多職種連携のことであります。また、過去から現在、現在から未来への「つながり」を意識した大会にしたいという意味も込めました。孤立した家庭や若年妊娠、妊娠期からの支援、居所不明の子ども、子どもの貧困・貧困家庭、里親支援、養護施設、子どもシェルター、報道・メディアの役割、世代間連鎖、戦争の外傷体験との関連、DV（Domestic Violence）など、多様な課題・問題に私たちは直面していますが、こういった問題を様々な職種や立場の人と一緒に考えてみたいと思っております。そして、大会を通じて、様々な豊かな「つながり」が生まれることを願っております。

11月20日(金)

●大会企画シンポジウム

「つながりを失った子どもたち～孤立家庭、居所不明児の問題を考える～」(仮)

厚生労働省、文部科学省、石川結貴（作家/ジャーナリスト）、田代健一（新潟県若草寮寮長）

つながりを失って孤立した家庭、格差と貧困の中で孤立を深める子ども、育児放棄されて自宅に置き去りにされた子ども、居所すら分からなくなった子どもなど、様々なつながりを失った子どもの問題を考えます。

●特別講演

「親の配偶戦略と子どもの虐待」長谷川真理子（総合大学院大学教授）

「ヒトは、母親のみで子育てをすることが不可能な、共同繁殖の動物である。子どもが生まれてから独立するまでには、血縁、非血縁を含めた、母親以外の多くの個体がかかわる。一人の子どもを育てるための資源とエネルギーの投資は非常に大きく、さまざまな環境が整っていなければ、子育てがうまくいかない可能性が高い。親から見れば、うまくいかないと思われる現在の子育てを止めて、次の繁殖の機会に賭けるというオプションが存在する。進化生物学の諸理論をもとに、ヒトに見られる子殺しや児童虐待について論じる。」



●国際プログラム

「米国における子ども虐待 多職種連携によるアプローチの実際」

Philip Hyden（セントラルカリフォルニア小児病院 ギルド児童虐待防止・治療センター長）

「『子どもの権利擁護センターかながわ』における『多機関連携チーム・アプローチ』の取り組み」

山田不二子（認定NPO法人子ども虐待ネグレクト防止ネットワーク理事長）

日米における子ども虐待の現状、特に多職種連携の現状と課題、新たな取り組みなどについて語ってもらう予定です。



●教育講演

「ひとり親家庭の貧困と子育て」湯澤直美（立教大学コミュニティ福祉学部教授）

「エビデンスに基づいた子ども虐待防止政策」和田一郎（社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 愛育研究所主任研究員）

「妊娠期からの虐待予防～妊娠・出産包括支援事業と特定妊婦支援の目指すもの～」

佐藤拓代（大阪府立母子保健総合医療センター母子保健情報センター長）

「虐待が子どもにもたらす影響と必要な支援」増沢 高（子どもの虹情報研修センター研修部長）

11月21日(土)

●大会企画シンポジウム

「戦争体験と子ども虐待～トラウマの世代間連鎖から考える～」

大森淳郎（NHKディレクター）、北村 毅（大阪大学准教授）、小林 茂（映画監督）、森 茂起（甲南大学教授）

静かな湖面に石が落ちて波紋が生じた時は、その原因を自覚できますが、徐々に広がっていくにつれて、何が原因で波紋が生じたのかは分かりにくくなっていきます。太平洋戦争による被害・加害による外傷体験は、戦後の社会や家族の形成に様々な影響を与えました。子ども虐待とも深いところでつながっているのではないかと考えられます。この問題について4人のシンポジストに、それぞれの観点から語ってもらい一緒に考えます。

●教育講演

「むずかしい子へのペアレント・トレーニング」野口啓示（社会福祉法人神戸少年の町 地域小規模児童養護施設職員）

「少年非行と虐待～親と子どもへの対処法を中心に～」小栗正幸（宇部フロンティア大学臨床教授）

「DV家庭の子ども理解と支援～世代間伝達と周囲への影響を視野にいれて～」白川(西)美也子（こころからだ・光の花クリニック院長）

「The Medical Evaluation of Child Maltreatment: Physical Abuse, Sexual Abuse and Neglect」 Philip Hyden